



大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」
～ 努め合い・学び合い・共に育つ ～

<目指す児童像>

豊かなコミュニケーションの下で、

かしこい子 (知) 明るい子 (徳) たししい子 (体)

TEL 663-7005

FAX 663-9886

大砂土小学校 ホームページは <http://osato-esaitama-city.ed.jp/>

メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

令和6年10月31日 第7号

思い出の香り

校長 新堀 栄

今年の10月は、例年にも増して暑く、「夏日」が10日、「真夏日」が2日もありました。大砂土小学校の職員玄関を出ると、体育館への通路際に、私の好きな「金木犀（キンモクセイ）」の大きな木が植えてあります。金木犀の開花時期は9月下旬以降ですが、気温が高いほど開花時期は遅くなり、今年の開花は運動会の直前でした。そして、その開花期間は通常1週間ほどですが、この暑さのためか、3、4日ほどで残香とともに花が全て落ちてしまいました。金木犀の香りを始め、ふと何かの香りに接したとき、急に昔の記憶が蘇ってきた記憶はありませんか。例えば、乾いたアスファルトに雨が落ちてきた時の香り、土や草の香り、海辺の潮風や食べ物の香り…。そんな香りとともに、妙にリアルな記憶が、当時の感情そのままに湧いてくる経験はないでしょうか。嗅覚以外の感覚、例えば視覚で故郷の風景を見たり、聴覚で昔の曲を聴いたりして思い出に浸ることはもちろんあると思います。しかし、嗅覚と結びついた記憶は特別に鮮明で、何だか胸に迫る、そんな実感を持つ方は多いと思うのです。研究者によると、香りは過去の記憶を思い出させ、嗅覚と記憶とが脳の中で結線されるそうです。また、ある香りを嗅いだ瞬間、過去の光景がフラッシュバックしたり、特定の人や場所を思い出したりする経験を「プルースト効果」¹と言い、香りは何かを思い出するときの重要な手がかりになることがわかっています。さらに、ただ記憶が蘇るだけではなく、当時のわくわくした感情も伴って思い出することも特別なことです。

さて、前置きが長くなりましたが、先週土曜日の「大運動会」には、大勢の保護者や地域の皆様にご来校いただきました（試算で児童と合わせ4,500名）。また、子ども達の演技にたくさんのご声援並びに大きな拍手をありがとうございました。温かい応援が子ども達にとって大きな励みとなり、それぞれがもてる力を発揮し、ひいては大きな自信につながったことと思います。

翻って、子ども達を見ていつも思うことは「目指す目標が共有でき、そこへ到達するための過程がよくわかると、非常に意欲をもって取り組み、力を最大限発揮していく」ということです。それが「行事」の大きな役割です。運動会を始め、学校の行事は、子ども達に達成感や成就感を味わわせ、自尊感情を高めるとともに、子ども達の生活の場である学級や学年という集団の質を高める絶好の機会となります。さらに質の高い集団は一人一人を鍛えます。集団に対して自分が価値ある存在であることを認識したときに、集団はさらに向上し発展していくものです。これからも本校では、行事を通して集団を育て、個人個人が成長できるように努めてまいります。

最後に、運動会の翌週、6年生の保護者のお一人がお話ししてくださった一言に、今回の運動会が無事に実施できてよかったと心から思いました。

「今の姿と1年生の時の姿を重ね、子どもを見ているだけで涙が出てきました」と。いつか子ども達も大砂土小学校の運動会の思い出とともに、校庭の土の香りや校舎、特別教室の香りを懐かしく思う時が来るのでしょうか。

1 ある香りを嗅ぐと、その香りに関係した記憶や感情が鮮やかによみがえる現象は、マルセル・プルーストの小説に同様の描写があることから「プルースト効果」と呼ばれているそうです。しかも、その記憶は、言葉や写真で聴覚や視覚に訴えかけて思い出されるよりも正確なのだそうです。